

風水害

気象庁の注意報・警報

大雨や強風などにより災害が起こるおそれのあるときは「注意報」、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」、重大な災害が起こるおそれが大きい危険な状況であるときは「危険警報」が発表されます。

The Meteorological Agency issues an "advisory" when there is risk of a disaster due to a heavy rain or strong wind, "warning" when there is risk of a serious disaster and "urgent warning" when there is a high risk of a serious disaster.



レベル2大雨注意報 Level 2 Advisory (Heavy rain)

最新情報に注意し、災害に備えて早めに準備しましょう。

Pay attention to latest information and make early preparations against a disaster.



レベル3大雨警報 Level 3 Warning (Heavy rain)

町が発表する避難情報に注意し、必要に応じ速やかに避難しましょう。

Pay attention to evacuation information announced by the town office and evacuate immediately when necessary.



レベル4大雨危険警報 Level 4 Urgent Warning (Heavy rain)

避難情報に従い直ちに避難！外出が危険なときは、家の中でも安全な場所へ！

Evacuate immediately according to evacuation information! If it is dangerous to go out, go to the safest place in your house!



風水害の強さ

雨の強さと降り方

やや強い雨 (1時間に10～20mmの雨)	強い雨 (1時間に20～30mmの雨)	激しい雨 (1時間に30～50mmの雨)	非常に激しい雨 (1時間に50～80mmの雨)	猛烈な雨 (1時間に80mm以上の雨)
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。	土砂降りの雨、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小河川では、はんらんやがけ崩れの心配もあります。	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要です。道路規制も行われます。	雨が溝のように降り、あたりが水しぶきで白くなります。マンホールから水が噴出することもあり、土石流などが発生しやすい、警戒が必要です。	息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方

やや強い風 平均風速(10～15m/s)	強い風 平均風速(15～20m/s)	非常に強い風 平均風速(20～25m/s)	猛烈な風 平均風速(30m/s以上)
風に向かって歩きにくくなり、取付けの不完全な看板やトタンが飛び始めます。	風に向かって歩きにくくなり、転倒する人が出たりビニールハウスが壊れはじめたりします。	しっかりと体勢を確保しないと転倒します。金属製のシャッターが破損したり、風で飛ばされたもので窓ガラスが割れたりします。	立っていられなくなり、屋外での行動は危険です。ブロック塀が壊れたり、取付けの不完全な屋外外装材がはがれ飛び始めます。

洪水についての基礎知識

外水はらん

1 大雨や雪解けによって、川の水量が増え、水かさ上がり始めます。	2 堤防いっぱいまで水が増えると、土でできた堤防に圧力がかかり始めます。
3 水圧に堤防が耐えられなくなると、一部が崩れ始めます。	4 堤防の崩れた場所を通して勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

内水はらん

1 街などに降った雨は、側溝・雨水管を通して川に排水されます。	2 大雨が降ると、川の水位が上がり、排水されずにあふれてしまいます。

風水害時の心得

ひざ上まで水があると歩行困難 水流が弱くても冠水している道路を通るのは危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界でひざ上まであれば歩行困難です。	子どもはロープでつなぐ もしものことを考えて、子どもと大人の体をロープでつないでおきましょう。	足元の溝などに注意 氾濫した水は濁っているので地面が見えません。長い棒を杖代わりにして確認しながら、できるだけ道路の真ん中を歩きましょう。
子どもや高齢者の安全を確保 小さな子どもや足の不自由なお年寄りは背負って、安全に避難しましょう。	川や水路に近づかない 川や水路、冠水している場所のそばは避けて避難しましょう。あらかじめ決めておいたよく知っている避難経路を通りましょう。	がけなど危険な場所を避ける がけのそばを避け、垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。